

平成14年度評議員会議事録

日 時：平成14年11月22日（金）15:00-17:00

場 所：高知市 サンライズホテル

出席者：高橋三保子、遠藤卓郎、金田良雅、洲崎敏伸、月井雄二、芳賀信幸、春本晃江、三輪五十二、渡辺 彊、見上一幸

欠席者：神原廣二、細谷浩史、竹内 勤、長澤秀行、松岡達臣（今期大会長）、今井壮一（次期大会長）

議 題：総会提出議題の検討

平成14年度総会議事録

報告事項

1. 庶務関係

見上庶務担当より、以下の報告があった。

イ. 会員の異動

平成14年11月21日現在の会員数は、219名（内訳：名誉会員4名、一般会員147名、学生会員65名、賛助会員3）で、本年度の新入会者は17名（内訳：一般7名、学生10名）、および退会者は10名（内訳 一般4名、学生6名）であったことが報告された。

ロ. 本年度電子メール評議員会での決定事項について

見上庶務担当より、平成14年度（平成13年11月金沢大会以降）のe-mail評議員会（4回）について報告された。また、平成14年度後援により本学会名義の使用を許可したアジア繊毛虫会議および日本環境教育学会の二つの事業が無事終了したことの報告もあわせて行われた。

2. 編集関係

洲崎編集委員長より、平成14年度原生動物学雑誌およびニュースレターの発行等について報告された。

3. 奨励賞選考結果報告

高橋奨励賞選考委員会委員長から本年度奨励賞の選考経過について報告があり、本年度学会奨励賞は春本晃江会員に決定したことが報告された。

審議事項

1. 平成13年度会計決算報告および会計監査報告

三輪会計担当から、平成13年度会計決算報告があったのち、沼田監事より適正な会計処理で問題ない旨の会計監査報告がなされ、承認された。

2. 平成14年度中間報告

三輪会計担当から、平成14年度は順調な予算執行が行われていることが報告され、了承された。

3. 平成15年度活動計画

編集方針

洲崎編集委員長から、原生動物学雑誌に掲載する大会研究発表要旨に200語以内の英文要旨を加えること、また、実施時期は今年度からとした旨の提案があり、承認された。

なお、この英文要旨をJ. Eukaryotic Microbiologyに掲載するかどうかは、今度の検討課題とすること、現行B4版をA4版にすることについても、しばらく投稿論文数の推移を見定めた後に再検討することで承認された。

事業計画

(1) 日本分類学連合への協力事業について

高橋会長より、日本分類学連合との経過が報告され、同連合で検討されている「日本産生物種数調査について」への協力など、本学会としての課題もあり、今後、日本における原生動物の分類について、学会としてどう取り組むべきかについて、会長の下に検討グループをつくることが提案され、承認された。

(2) 学会奨励賞について

奨励賞と呼ぶには受賞者の年齢が高いのではないが、その一方で英語での表現がThe Award of the Japan Society of Protozoology（平成11年度総会決定）となっており、学会賞的位置付けとなっているなど、会員の中に種々意見があることが、高橋会長より開陳された。会場からは、本賞は本来、若い会員の活性化を考えて創設された経緯もあり、現状の学会賞としての性格を変えないなら、なんらかの形で若者に励みとなるような賞等を検討してみてもどうか、などの意見も出され、今後、引き続いて検討することとした。

なお、学会員に対して奨励賞の選考結果がより透明性の高いものになるよう、選考理由を原生動物学雑誌に掲載する旨の評議員会提案が庶務担当からなされ、承認された。

(3) 大会での外国人招待講演者を招聘について

樋渡名誉会員からの毎年の寄付により、学会大会に外国人招待講演者を招聘することが恒例となっているが、外国人を招聘するかどうかはそれぞれの大会長に一任することとし、招聘の申請があった場合に評議員会で検討することとした。

(4) ホームページについて

多くの諸学会等の団体が利用できる国立情報研

研究所のサーバーが利用できることになった。そこで、利用申請が承認されたのを機会に、現在筑波大学のサーバーに設置されている本学会ホームページを、国立情報研究所に移設することが庶務から提案され、承認された。なお、移設は月井評議員にお願いすることとして、その後は、多年にわたってホームページの維持管理の労をおとり頂いた月井氏から、同氏に代わる方を募ることも合わせて承認された。

平成15年度予算案

三輪会計担当から、平成15年度予算案について提案がなされ、原案通り承認された。

4. 新規名誉会員

高橋会長より、渡邊良雄会員、重中義信会員の名誉会員推薦がなされ、満場一致で承認された。

5. 次々期(第37回)大会長と開催地について

第37回大会が藤島会員を大会長に山口で行われる予定であることが提案され、承認された。その後、藤島会員から引き受ける旨の挨拶がなされた。

その他

次期第36回大会長の今井会員から挨拶があり、11月23日(日)、24日(月)の2日間、日本獣医畜産大学を会場に行われる予定であることが紹介された。

平成13年度 日本原生動物学会会計決算報告

1. 収入の部		
科目	予算額	決算額
前年度繰越金	1,100,000	1,102,411
学会費	1,116,000	1,004,000
賛助会費	50,000	50,000
寄付	0	31,000
学会誌別刷代	0	81,000
利子	2,000	810
計	2,268,000	2,269,221

2. 支出の部		
科目	予算額	決算額
学会誌印刷代(第34号)	750,000	229,530
学会誌郵送代	20,000	20,620
ニュースレター印刷費	0	80,030
大会補助費	200,000	300,000
奨励賞副賞費	100,000	100,000
通信費	20,000	7,065
評議会費	20,000	24,948
事務諸経費・謝金	100,000	100,000
振替手数料	10,000	6,980
次年度繰越金	1,048,000	1,400,048
計	2,268,000	2,269,221

平成13年度 日本原生動物学会国際交流基金決算報

1. 収入の部	
前年度繰越金	1,956,686
寄付(樋渡宏一)	250,000
計	2,206,686
2. 支出の部	
外国人招待者謝金	250,000
国際学会派遣旅費援助金(5名分)	500,000
同 送金手数料	2,835
次年度繰越金	1,453,851
計	2,206,686

平成13年度 日本原生動物学会基金決算報告

1. 収入の部	
前年度繰越金	1,712,583
利子	3,383
計	1,715,966
2. 支出の部	
シンポジウム助成金	405,200
同 送金手数料	1,890
次年度繰越金	1,308,876
計	1,715,966

平成15年度 日本原生動物学会会計予算案

1. 収入の部	
前年度繰越金	1,100,000
学会費(6,500×143+2,500×65)	1,092,000
賛助会費	30,000
利子	500
計	2,222,500

2. 支出の部	
学会誌印刷代(2号分)	500,000
学会誌郵送代	60,000
編集諸経費・謝金	60,000
Newsletter印刷代	50,000
Newsletter編集諸経費・謝金	20,000
会計諸経費・謝金	40,000
庶務諸経費・謝金	30,000
大会補助費	200,000
奨励賞副賞費	100,000
若手の会助成金	20,000
評議会費	40,000
通信費	20,000
振替手数料	7,000
次年度繰越金	1,075,500
計	2,222,500

平成15年度 日本原生動物学会国際交流基金予算案

1. 収入の部

前年度繰越金(定額預金)	1,000,000
前年度繰越金(普通預金)	455,000
寄付	250,000
利子	300
計	1,705,300

2. 支出の部

外国人招待者謝金	250,000
次年度繰越金	1,455,300
計	1,705,300

第1回大会以来の開催地及び大会長

	開催地	開催年度	大会長
第1回	小平市	昭和42年	藤田 溥吉
第2回	吹田市	昭和43年	猪木 正三
第3回	広島市	昭和44年	尾崎 佳正
第4回	東京都	昭和45年	松林 久吉
第5回	徳島市	昭和46年	尾崎 文雄
第6回	仙台市	昭和47年	樋渡 宏一
第7回	奈良市	昭和48年	稲葉 文枝
第8回	東京都	昭和49年	石井 圭一
第9回	大阪市	昭和50年	高田 季久
第10回	東京都	昭和51年	盛下 勇
第11回	岐阜市	昭和52年	野澤 義則
第12回	横浜市	昭和53年	斎藤 実
第13回	吹田市	昭和54年	中林 敏夫
第14回	つくば市	昭和55年	渡辺 良雄
第15回	広島市	昭和56年	重中 義信
第16回	東京都	昭和57年	石井 俊雄
第17回	津市	昭和58年	安達 六郎
第18回	東京都	昭和59年	浅見 敬三
第19回	大分県	昭和60年	山高 里盛
第20回	東京都	昭和61年	小山 力
第21回	山口市	昭和62年	星出 一巳
第22回	つくば市	昭和63年	渡辺 良雄
第8回国際原生動物学会			
第23回	つくば市	平成元年	樋渡 宏一
第24回	長崎市	平成2年	神原 廣二
第25回	伊勢原市	平成3年	金田 良雅
第26回	奈良市	平成4年	菅沼 美子
第27回	石巻市	平成5年	樋渡 宏一
第28回	帯広市	平成6年	鈴木 直義
第29回	小金井市	平成7年	鶴原 喬
第30回	東広島市	平成8年	細谷 浩史
第31回	水戸市	平成9年	三輪五十二
第32回	岐阜市	平成10年	野澤 義則
第33回	仙台市	平成11年	渡辺 彊

第33回	金沢市	平成12年	遠藤 浩
第34回	神戸市	平成13年	洲崎 敏伸
第35回	高知市	平成14年	松岡 達臣

奨励賞に関する内規

学会の若手会員の研究活性化のため、日本原生動物学会奨励賞授賞制度をおく。

1. 受賞者は会員の中から原則として年に1名とする。
2. 候補者は自薦でなく会員からの推薦とする。
3. 候補者として推薦された者は、必要書類(履歴書, 研究業績リスト, 会員歴, 主要論文別冊5編)各3部を推薦者に提出する。
4. 推薦者は毎年8月末までに申請書類(推薦理由書, 候補者からの必要書類各3部)を会長あてに送付する。
5. 評議員会において互選により奨励賞審査委員3名および選考委員長1名(いずれも任期3年)を選び、審査を行い、結果を評議員会に諮って受賞者を決定する。

奨励賞受賞者名

1991年	沼田 治(筑波大学)	テトラヒメナの多機能タンパク質の研究
1992年	田辺和祐(大阪工業大学)	マラリア原虫の寄生に関する分子生物学的研究
1993年	彼谷邦光(国立環境研究所)	環境適応における脂質分子の役割
1994年	今井壯一(日本獣医科大学)	ルーメン内繊毛虫の分類学的研究
1995年	見上一幸(宮城教育大学)	ゾウリムシの二核性と核分化の研究
1996年	藤島政博(山口大学)	ゾウリムシとホロスボラの共生における宿主-共生生物間相互作用
1997年		(受賞者なし)
1998年	芳賀信幸(石巻専修大学)	イマチュリン:未熟期の分子機構
1999年	広野雅文(東京大学)	クラミドモナスの非保存的アクチン
2000年	松岡達臣(高知大学)	繊毛虫ブレファリスマのキノン光センサーと光シグナリング
2001年	長澤秀行(帯広畜産大学)	トキソプラズマ感染に対する宿主免疫システム
2002年	春本晃江(奈良女子大学)	繊毛虫における細胞間相互作用